

鎌倉市教科用図書採択検討委員会（第3回）会議録

日 時 平成26年7月22日（火） 9：30 開会  
16：00 閉会

場 所 鎌倉市生涯学習センター 第6集会室

出席者 佐野委員 中村委員 石渡委員 西岡委員 杉並委員  
伊藤委員 福頼委員 久保田委員 初見委員

欠席者 堀委員 多那指導主事

事務局 川合教育指導課長 石川指導主事 露木指導主事 關根指導主事  
中尾指導主事 上田指導主事 澁谷指導主事 河合指導主事  
泉指導主事 太田指導主事

次 第

- 1 開会
- 2 報告書(案)検討
- 3 閉会

事務局 鎌倉市教科用図書採択検討委員会第3回を開会する。本日、委員長は、欠席の連絡で、進行を副委員長にお願いする。

副委員長 鎌倉市教科用図書採択検討委員会の第3回委員会を開催する。本日の会議録署名委員を石渡委員と初見委員にお願いする。

副委員長 本日の流れについて事務局にお願いする。

事務局 本日は最終回のため、検討委員会の報告書をまとめる作業が中心となる。お手元の「平成27年度使用教科用図書調査研究報告書(案)」は、前回第2回委員会で協議した内容を事務局でまとめたものである。

内容について、「総合評価」の☆の数、「総合評価の内容」に発言の趣旨が記載されているかを確認いただきたい。

さらに、適切な用語が使われているか、字句の修正等についても検討いただきたい。

また、今回が最後の検討・協議となるので、前回の検討・協議内容と本日の意見を踏まえ、最終の総合評価の協議をお願いしたい。以上。

副委員長 今の事務局の説明の通りに進めていく。よろしいか。

委 員 (異議なし)

副委員長 協議順は、前回と逆に進めたい。なお、算数は事務局の関係で最初に協議したい。

副委員長 事務局に確認をお願いする。では、算数の協議に入る。前回、6ページの総合評価として東京書籍、学校図書、教育出版を☆2つ、大日本と啓林館は☆1つということで、誤りや補足はないか。

総合評価を見ると、全体を通した部分とある部分を捉えて示した部分とで、多少の違いがあるように思う。啓林館で例としてあげているものが、全体の中でどれくらいの割合か。

委 員 意義がなければ教育委員会に提出され、公開されるということか。

副委員長 そうだ。

委 員 東京書籍の1行目「家庭で勉強しない子が増えている実態がある」は、分析が必要では。

委員 かまくらっ子を見て発言したが、他の言葉に置き換えるか、削除してもかまわない。

委員 表現の工夫があった方がよいのでは。

副委員長 家庭での学習を考慮し、振り返りや補充の問題につなげていくことかどうか。

委員 文言については最終的に、事務局や委員長、副委員長にまとめていただくことが可能なら、今日は表現を変えた方がよいところをあげていくことかどうか。

副委員長 文言については可能。今の委員の内容でやっていきたい。

事務局 キーワードをいただいて、それを盛り込みながら、事務局で委員長、副委員長と表現整理をしていく。

副委員長 進めていく上で3者の☆2つから☆3つを決めていくため、☆2つで気付いたことを挙げてほしい。

委員 算数は実生活と結び付けて学ぶことが大切。学校調査表から東京書籍、学校図書を見比べて学校図書の方が体積でも箱の大きさを比べるなど、目で見て考えられ、そこから数字を出す。東京書籍はいきなり四角形がでてくる。学校図書の160ページの「石の体積を求めましょう」で石の写真が出ていて、こういう部分が実生活と結びつく。東京書籍の35ページで、小数を線分図で表して計算する。学校図書は53ページで小数を面積図で表し、大きさを見てわかる。数字で分かりにくい子が、量的に見て理解することは大切。以上から学校図書がよい。東京書籍は目で見てわかる部分が少ない。

委員 学校調査表で、本校の児童にふさわしいかという点で、東京書籍がよいとなっている。昨年4年生の算数の授業をやったが、東京書籍の方が長方形、立方体などいろいろな形があって、具体的に使えるので、教えやすかった。

副委員長 東京書籍、学校図書のそれぞれのよさが出ているが、他にないか。

委員 小数と分数を見比べてほしい。

副委員長 では、5年生の学校図書の上巻53ページと東京書籍の上巻35ページで確認したい。

委員 調査員の資料で東京書籍の下の2つで、算数は積み重ねの学習なので、

そこを配慮してもらうのはありがたい。スパイラル的だとか全学年の復習ができるのはよいとある。

委員 小学校から中学校に繋げる部分ほどの教科にも共通する。東京書籍は家庭学習が一番にくるが、学校図書にも家庭学習のところはある。授業を重視するなら順序を入れ替え、10 ページの下から2つを入れてはどうか。学校図書の「中学生へのかけ橋」は内容的にどの教科書にもある。別冊だからよいのか。学校図書のよさは11 ページの「言葉のコラム」のところ。算数の用語などを子どもたちにわかりやすく、かみ砕いている。練習問題が多く、自己評価しやすい。こういうところではないか。

副委員長 細かいところではそれぞれいいところが出たが、全体を見て示す意見を出していきたい。

委員 東京書籍は示しているが、それを見付けることも大事。例えば、はかりで学校図書は曲がっている。東京書籍はまっすぐ。

委員 重さなどは感覚でわかるが、分数など感覚でわからないものを子どもにわかりやすい。はかりが曲がっていることは大人には分かるが、子どもは絵で見てわかるのはよい。宿題がわからないのは授業がわかっていないので、家で教科書を見てわかるのはよい。

委員 学校図書の総合評価の内容の最初の3行は一つの例で他の部分でもあげられ、理解につながるようになっている。

委員 学校図書はわかりにくいところをわかりやすく表現されている。

委員 東京書籍は教えやすい。学校図書は子どもの理解を中心とした発達の段階に応じた視覚的にも理解しやすいという視点が入っている。中学校に来て算数から数学になり、計算はできてもその意味がわからない子がいる。理解し難い児童からするとどちらがよいか。

副委員長 今の委員の意見の中で、わかりやすさや視覚的な部分でわかっていく子を考えていろいろな場面で学校図書は工夫を感じる。どちらかに絞るのは難しい。今までついていた方が授業はやりやすい。ただ、子ども目線で選ぶとどちらもいいところがあるので、決めかねる。身近なものの扱いについて事務局何か資料はあるか。

指導主事 県の資料「調査のまとめ」の51 ページに資料がある。身近なものを扱っているページ数では、東京書籍に比べ学校図書は多い。  
その他の部分では、さほど大きな差はない。

副委員長 総合評価について、学校図書を☆3つとすることでよいか。

- 委員 東京書籍もよいと考える。現場の先生が使いやすいものは子どもの反応がいいからで、調査員の資料や学校調査票を踏まえての意見である。
- 委員 教えやすいというのはどういうことか。
- 委員 授業の中で、子どもとの関係がよい。子どもの反応がよく、テンポよく授業をすすめられる。テンポも大事。
- 委員 それは理解とイコールにならないのでは。
- 委員 子どもの理解を見ながら授業を進めていく。
- 委員 両者の意見が同じように出ているので、東京書籍と学校図書の2つを☆3つとしてはどうか。
- 副委員長 それでは☆3つは東京書籍と学校図書の2者にすることでどうか。
- 委員 (異議なし)
- 副委員長 次の保健をお願いします。前回、東京書籍と学研教育みらいに☆をつけたので、そこを重点的に見ていきたい。意見をお願いします。
- 委員 内容的に変わりがなくても、見やすいのは東京書籍。書き込みのスペースもちょうどよい。
- 副委員長 見やすさ、書き込みの部分で東京書籍との意見が出たが、小学生は机に2列にしまうので、サイズはどうか。
- 委員 東京書籍の大きさの方が、出し入れしやすい。使いやすい。
- 副委員長 調査員の報告書にもあるように見開きで1時間になっている。東京書籍の方が、子どもが自分の考えを書く欄もあり、それをもとに授業を展開することもできるとある。
- 副委員長 右側の欄はノートのように使うことができる。他にないか。
- 委員 内容にあまり差がない。東京書籍は調査員報告書にあるように自己チェックしていける。学習パターンが組みやすい。私も東京書籍の方がよいと考える。右側に記入する欄があり、授業にも生かすことができる。
- 副委員長 東京書籍を☆3つ、学校図書を☆2つ、その他は☆1つということではどうか。

委員 (よい)

副委員長 家庭科をお願いします。事務局から補足はないか。

指導主事 東京書籍は基礎・基本の確実な習得ができるよう配慮されている。また、ユニバーサルデザインを意識した紙面構成になっている。開隆堂出版はガイダンスや目的を持って学習できる。応用の作品例が多く、発展的な学習を楽しめるようになっている。実習ページで写真を多用しているため、分かりやすい。調査員会では開隆堂の方が使いやすいという意見が出ている。

委員 見通しを持って、中学校へ繋がるスパイラルはよい。開隆堂出版がよい。

委員 家庭科は衣食住という分野があるが、開隆堂出版は5ページの分類で色分けされており、どの分野のどこを学習しているのか分かる。写真が実習で何をしているのか分かりやすい。

委員 東京書籍は日本の伝統を意識させるところがある。自由研究で活用できそうな題材がある。生活と密着していて家庭でもやってみたいという題材が掲載され、興味が持てる。

委員 2者とも巻末に野菜の切り方などの例示があるが、東京書籍の方が大きく見やすい。

副委員長 今までの意見をまとめると、開隆堂出版を☆3つ、東京書籍を☆2つにすることでよいか。

委員 (よい)

副委員長 図工をお願いします。2者の中で記載の内容はどうか。まとめた(案)の中で日本文教出版の「児童が・・・掲載されている」は写真が多すぎるということか。

副委員長 意見を伺いたい。

委員 開隆堂出版の表現に鎌倉彫を入れてもよい。日本文教出版が☆1つだが、もう少し加えたほうがよい。

委員 学校調査表・調査員報告書の内容ではあまり差がない。

委員 開隆堂出版を☆3つ、日本文教出版を☆2つとして、表現を加えてはどうか。

委員 開隆堂出版は例がたくさん出ているので、☆3つ。日本文教出版はおも

しろい例がのっている。☆2つがよいと思う。

委員 調査員報告書には、日本文教出版は掲載されている作家が多く、多様な活動例が示されているとある。

委員 作家が多いということ、プラスの表現にするとよい。

委員 日本文教出版はダイナミックな造形活動が載っている。

委員 巻末の用具の扱いが大きく見やすい。

副委員長 では、整理すると、開隆堂出版を☆3つ、日本文教出版を☆2つにすることによいか。

委員 (よい)

副委員長 では、音楽をお願いします。

副委員長 前回の検討委員会や学校調査票では教育芸術社の評価が高かったが、大きな差ではない。しかし、教育出版についての意見が少なかったがいかか。

委員 教育出版だが、一つ目の文が「児童が興味・関心をもてるよう工夫している」、二つ目の文も「児童が興味・関心をもってとりくめるよう工夫されている」と同じ文末になっているのが気になる。また、「やや多い」がやはり気になる。教育出版の調査員報告書では、歌唱教材は、手話などの表現活動を全校で行える合唱曲を取り上げ、また低学年では交互唱、輪唱、まねっこあそびを通して、友達と合せて活動できるよう工夫されているというように具体的なものがあげられている。そのため、「音楽科の～やや多い」は削除し、「昔から親しまれている曲から新しい曲までいろいろな曲が多く扱われている。特に歌唱教材では、手話などの表現活動を～歌唱教材が多くあつかわれている」というように調査員報告書を生かしてみてもどうか。

委員 教育出版は、中学校では授業数が減っている中で、鑑賞が音楽の形態を幅広く発達の段階に応じて中学校の学びを視野に入れ、系統的に配列されているということは、中学校につながっているという鑑賞の取組であり、評価できる。

副委員長 今の委員の意見を記載することでよいか。

イメージを喚起するイラストや写真が豊富に掲載されている。どちらも豊富に掲載されているが、共通教材を見比べてみると、教育出版の方の写真が華やかである。2者の大差はないが、教育芸術社を☆3つ、教育出版

を☆2つとすることでよいか。

委員 (よい)

副委員長 次の生活をお願いする。7者あるが、東京書籍、大日本図書、学校図書が☆2つ、その他は☆1つとしていた。

委員 東京書籍は活動例がイラストで載っているの、子どもたちがイメージしやすい。

委員 大日本図書の懸念という表現は適切ではないのでは。また説明が一文になっているので、第二段落の「工夫の一つとなっている」で区切る。

委員 「児童・・・懸念もあるが」を削除した方がよい。

副委員長 懸念のところは削除し、活動の例に繋げる。他にないか。

委員 学校図書はシンプルに編集されていて、「物知りノート」が所々にあり、子どもが関心を持てるのではと思う。東京書籍のイラストもわかりやすいが、授業ではどちらを選ぶのか。

委員 学校図書の二段落目の「発問の・・・されている」の児童を削除する。

委員 東京書籍の教科書は、調査員のまとめにもあるように活動したことを表現する方法として、言葉と体験をつなげ活動を振り返りやすい様々な活動例が提示されていたり、子どもたちの吹き出しがあったりということが特徴となっているので、よいと思う。その点を追加し記入してはどうか。

副委員長 今までの意見を盛り込み、東京書籍と学校図書を☆3つとし、大日本図書を☆2つとすることで、よいか。

委員 (よい)

副委員長 それでは、ここで昼の休憩とする。午後は理科から開始する。

(休憩)

副委員長 では理科をお願いする。総合評価は大日本図書、学校図書が☆2つだが、調査員による調査の観点を確認したい。

指導主事 観点としては、4点ある。1つ目は、実験をするにあたってなぜその実験を行うのか。生活に結び付けるなどして必要性を感じさせている。2つ目は、問題解決の流れがわかりやすい。3つ目は、資料性としてはどうか。



4つ目は、中学校若しくは次の学年へのつながりである。

委員 2者のどちらかという、学校図書はめあてが最初であり、子どもたちが理科の流れをつかみやすい。☆3つをつけたい。

委員 総合評価の内容で2～3段落でまとめられている。写真のことが書かれている。学校図書はわかりやすいが、大日本図書の興味がわくというのはどういうところか。また、学校図書の報告書の上から3つ目に、単元末には「活用しよう」という活用問題があり、科学的な思考力・表現力の育成がはかれるようになっているとあるが、思考力・表現力の育成は、現行の学習指導要領では、ポイントとなってくるので、大切なポイントとなる。

副委員長 今の意見等、学校図書の評価に加えてもらう。学校図書の写真、図の資料性が高いということによいか。

委員 大日本図書で、単元ごとに発展資料を載せている所で、中学校のつながりだけではなく、各学年、各単元のつながりにおいてもわかりやすく接続しやすいということを加えてはどうか。

委員 学年ごとにとというのが、他とは違う点であるため、加えることがよいと考える。

委員 学校図書は中学校のなかで、理科離れが聞かれる中で、生活に結び付けているのはよい。

副委員長 では、学校図書を☆3つ、大日本図書を☆2つ、他は☆1つということによいか。

委員 (よい)

副委員長 次は地図をお願いする。前回は帝国書院を☆3つとしたが、追加の意見はあるか。

委員 帝国書院が☆3つでよいと思う。

委員 東京書籍の「やや扱いづらい」の表現を変えた方がよい。調査員会資料の上から2つ目に、「各地方図には、定規イラストの実際の距離が示され、とらえやすい」という項目があるが、この点を追加したらどうか。このスケールがあることで子どもにも分かりやすくなる。

副委員長 他にいかがか。内容であれば、今の意見を取り入れ、総合評価は帝国書院を☆3つ、東京書籍を☆2つによいか。

委員 (よい)

副委員長 では、社会をお願いします。前回、東京書籍、教育出版両社を☆3つとし、それぞれの特徴はかなり出た。総合評価、その他の意見はないか。

委員 県の資料によると 34 ページの写真・グラフの数は、東京書籍が圧倒的に多い。その分、本文が少ない。しかし、資料が多い方がよいと思う。

委員 東京書籍には富岡製糸場、新島八重など、話題になった資料が掲載されている。

委員 教育出版の資料もよい。子どもに視点を当てているところがよい。それぞれにあったり、なかつたりする資料がある。沖縄のことは教育出版が詳しい。どちらを取るべきか難しい。

委員 東京書籍で気になるのは、アニメのキャラクターが度々出てくる場所である。

委員 鎌倉幕府の成立については、東京書籍は 1185 年、教育出版は 1192 年となっている。東京書籍の方が、鎌倉について掲載が多い。光村図書は、児童の視点になっている。調査員会資料の内容の 4 つ目に「本文にあまり説明的な文はないが、学習の進め方、学び方のヒントが多く記述されている」とあるが、光村図書の総合評価の内容に加筆してもよいのではないか。

事務局 教育出版は例えば戦争の学習ところでは、当時の子どもの視点になって書かれている。光村図書は写真等資料が大きい分、内容が薄いのかとも思う。

委員 教育出版は歴史のつながりが把握できる。特に、戦争のところの記述は流れでとらえられる。東京書籍はつながりが薄いと思う。

委員 東京書籍と教育出版の単元のまとめ方で比較すると、東京書籍は自分で考えてみよう、教育出版は穴埋め方式。子どもに考えさせるためには、東京書籍の方がよい。

委員 戦後の経済成長の段階で、東京書籍は公害についてあまり触れていない。教育出版は 4 大公害病として出ている。

委員 東京書籍は 5 年生の下巻に出ている。

委員 東京書籍で気になるのは、国旗・国歌の説明があるが、全ての人が納得しているわけではないということが書かれておらず、断定的で別の意見があることに触れていないことである。教育出版には、経緯が書かれている。

東京書籍と教育出版を読み比べると、だいぶ印象が違う。

委員 6年生で考えると、おじいさん、おばあさんが子どもの頃の話を書けるなど、教育出版の方が、庶民の立場で歴史を見て書かれており、特徴的である。

委員 社会科で、個性的な作家の作品であるアニメのキャラクターが使われているのはどうかと思う。

委員 作成者はこの題材が受け入れられると考えて作っているが、1つのものに固まってしまい、何度も出てくるのは気になる。

委員 教育出版の資料では、ハンセン病など国内の課題が出てくる。東京書籍は世界（他国）の文化が多く書かれているが、国内の問題にあまり触れていないのは、気になった。

副委員長 今までの意見は、教育出版の調査研究報告書の総合評価の内容、3段落目の「資料の示し方に工夫が見られたり、『持続可能な社会』について理解を深め、考える教材を多面的に紹介したりして、地球規模で考えることのできる内容となっている」に含まれている。東京書籍は調査研究報告書の総合評価の内容にもあるように、資料が見やすい大きさと豊富に扱われているということではどうか。他にないか。

委員 日本文教出版の最初の部分はどこのことを言っているのか。

事務局 3・4年生の下の42ページなど、資料同士を関連付けて読み取るヒントとなる、「学び方」「調べ方」のコーナーがあり、学習しやすくなっているところである。

委員 「振り返ってみよう」も、学習のまとめがわかりやすい。

副委員長 今の意見を取り入れ、日本文教出版の総合評価の内容には、調査員会資料内容の1つ目と4つ目を加筆するというところでよいか。  
では、東京書籍、教育出版を☆3つでどうか。光村図書はどうするか。

委員 学校調査票では、光村図書と日本文教出版の評価の差が大きいので、光村図書は☆2つでよいかと思う。

委員 学校調査票で、光村図書、教育出版を比べても差はない。

副委員長 では、東京書籍、教育出版を☆3つ、光村図書を☆2つ、日本文教出版を☆1つとすることでよいか。

委員 (よい)

副委員長 書写をお願いします。今回は光村図書が☆3つ、教育出版と日本文教出版が☆2つとした。何かないか。

委員 日本文教出版の2段落目で、「・・・説明している」を「説明されている」に直した方がよい。

委員 3年生のローマ字はどの会社にも出ているか。

委員 三省堂、教育出版は出していないが、他の会社には出ている。学校図書は少ない。

委員 量的に、書写にあまり時間をかけられないので、内容が多いと大変。3年生で毛筆を初めて学習することになるのだが、習字を習っていない子が多いので、光村図書が筆使いや穂先の向きなどわかりやすい。

委員 光村図書の「もっと知りたいコーナー」について、東京書籍の21ページに書かれており、他の会社にも書かれている。光村図書だけを取り上げるのはおかしい。

委員 3～4者同じようなものがある。前回、伝統文化という視点でわかりやすい資料という意見が出た。

委員 東京書籍にもある。

委員 その会社だけにある特徴を書くということか。

委員 数社にまたがったものでも特徴があるのなら、そのことを記載すべき。

委員 光村図書は伝統文化に触れ、学校図書は和紙を伝統工芸品に発展させていることを取り上げてはどうか。

副委員長 各社、伝統文化について取り上げているが、扱い方が違う。それぞれのよいところを記載することで、よいか。

委員 (よい)

副委員長 では、総合評価は、光村図書を☆3つ、教育出版、日本文教出版を☆2つ、他は☆1つとすることでよいか。

委員 (よい)

副委員長 次は国語をお願いする。今回は光村図書を☆3つ、東京書籍、三省堂を☆2つとした。

委員 領域の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」は、他のカギ「」と区別する書き方ができればよい。読むことと行為を表しているものと、読むことの領域を表しているものがある。学校図書は「」が多い。「」を外して、領域を付けてはどうか。

事務局 県の資料に「」が付いている。あえて領域を付けた。表現上の整理をすることでよいか。

委員 お任せしたい。

委員 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化に関する事項」の順番で文章を揃えたほうがよい。

副委員長 「読むこと」については、どこの会社でも記載がある。

事務局 整理する。

委員 東京書籍の1行目、学習の「ロードマップ」のカギ「」の位置は、「学習のロードマップ」である。

副委員長 事務局に修正をお願いする。その他、表記上のことでないか。

委員 三省堂の2段落目には「定評のある名作」、光村図書には「定評のある作品」と記載があり、作品に統一した方がよい。

副委員長 事務局にそのようをお願いする。教育出版には、「伝統的な言語に関する事項」となっているが、光村図書に記載されているように「伝統的な言語文化に関する事項」がよい。

では、総合評価の確認だが、光村図書を☆3つ、東京書籍、三省堂を☆2つ、その他を☆1つということによいか。

委員 (よい)

副委員長 最終的には事務局と委員長、副委員長でまとめることでよいか。

委員 (よい)

副委員長 では、事務局をお願いする。

今後について

事務局から 報告書原案の提示

種目ごとに☆の数と文章表現の確認